

招待講演

中尾佐助探検記録(タイプスライド)のデータベース化について

山口 裕文

(大阪府立大学名誉教授)

自然や人間生活の現地調査では得た情報の根拠を残すのが難しく、多くの場合、紀行文の記録だけになって再確認できないため、実験科学的研究者からの評価を受けられない事がある。フィールド研究では再現性を確認できる採集物や種子などで根拠を確保し、生物学での新種の記録(記載 **description**)では根拠のタイプ標本を指定する。タイプは実物標本でも描画でも認定されるが、タイプの無い記述では正式な種名には認定されない(裸名という)。中尾佐助は探検で撮影したスライドをタイプスライドと呼んでフィールド調査の根拠としている。押し花の標本と違って写真画像は永久に保存できず劣化するので、解決の手法としてデジタル化した画像をデータベースに構築したのが府立大学図書館で公開している中尾スライド DB である。本講演ではいくつかの探検を例としてフィールドノートや著作との連携を紹介する。

